

創造



No.
46

創造 No.46

| | |
|--|----|
| ●平成18年度「とやま賞」贈呈式…………… | 3 |
| ●今年度の受賞者…………… | 4 |
| ●「夢の卵」育成事業…………… | 6 |
| ●きらめき未来塾…………… | 8 |
| ●仕事場拝見事業 「算数なるほど納得！ゼミナール」開催…………… | 9 |
| ●平成19年度「とやま賞」募集 アイデアロボットフェスタ開催…………… | 10 |
| ●我が社の人づくり トナミ運輸株式会社 代表取締役社長 綿貫勝介 氏 高校生とことん科学セミナー開催 賛助会員の募集…………… | 11 |

【表紙コンセプト】

創造は無限に広がる宇宙であることを表しました。星の数だけ人の考えがあり、星の輝きが人の創造の数を表しています。



平成18年度

「とやま賞」創設の目的は、富山県に新たな産業を創生するべく、県内外の優秀な人材を表彰し、その育成に資することを目的とする。

「とやま賞」

贈呈式

第二十三回目の贈呈式、盛大に

「とやま賞」は、富山県の将来を担う有為な人材の育成に資する目的をもって昭和五十九年に創設されました。受賞対象は、富山県出身者又は県内在住者で、学術研究、発明発見、芸術文化及びスポーツの分野において顕著な業績を挙げ、かつ、将来の活躍が期待される個人又は団体の活動を奨励するものです。

今年度の贈呈式及び記念講演会は、高校生や一般の方々約五百名が参加し、富山国際会議場メインホールで行われました。贈呈式では、受賞者五名の方に中沖理事長から賞状等が手渡され、来賓の石井県知事、米原県議会議長から心温まるお祝いの言葉が贈られました。受賞者のあいさつでは、研究での苦労や喜び、今後の抱負等が語られ、来場者は興味深く聴き入っていました。

● 平成十八年五月十一日(木) ●

川島隆太先生、最新の脳研究を語る！

記念講演会では、東北大学教授の川島隆太氏を迎え、「脳科学から新産業を創生するー脳を知り、脳を鍛える」と題して講演していただきました。教授は、最新の脳研究の成果について、認知症の改善例などを交えて紹介。研究成果を福祉・教育の分野に還元する取り組みや、「脳を鍛える」ドリルやゲームが実は家庭環境の改善やコミュニケーションのツールとしての活用をねらったものだという話など、興味深い話が満載の講演でした。

終了後には、高校生からの勉強法についての質問をはじめ、会場からの多くの質問に明解に答えていただきました。





富山大学薬学部
助手
松谷 裕二 氏

私の研究分野は薬学であり、その中でも特に有機合成化学、創薬化学に基づいた医薬品創出研究を専門としています。現在世の中で使われている医薬品の大部分は有機化合物であり、その意味でも有機合成研究は医薬品開発になくてはならない重要な領域であると自負しているところです。

今回評価して頂いた研究は、「新規インフルエンザ治療薬の開発研究」です。インフルエンザは、過去から現在に至るまで人々に甚大な被害を与え続けている感染症であり、毎年シーズンになると社会ニュースとして流行が伝えられていることは、皆様よく御存じのことだと思います。特に最近

は、高病原性は、高病原性鳥インフルエンザの蔓延や、ヒトが免疫を持たない新型インフルエンザの出現に対する危惧が大きな社会問題となっており、世界規模で対策が練られてきていることは、記憶に新しいところ

です。特効薬「タミフル」の大量生産や備蓄が進められる中、従来にはない新型のインフルエンザ治療薬の開発が緊急の課題となっていることも、このような社会情勢からの当然の結果といえます。特にインフルエンザのようなウイルス感染症は、薬剤耐性ウイルスの出現が常に問題となることから、弛まぬ新薬開発研究の努力が重要です。

私は五年程前に現在の富山大学薬学部に着任し、天然有機化合物を基盤としたドラッグデザインと有機合成研究に従事してまいりました。今回の研究は、その当時着任間もなくに開始した研究であり、海洋産ボリケチド類のモデル合成研究の一環として行われたものでした。研究開始当初は、インフルエンザ治療薬に結びつくものとは全く考えずに行ったのですが、幸運にも合成中間体の生理活性スクリーニング試験において、インフルエンザウイルスに著効を示すことが偶然見出されたものです。大学での研究ではありがちなことですが、当初の研究目的とは全く異なる研究成果に結びついた一例であり、これも研究の面白さ、醍醐味であると思っております。

富山県といえますと、誰もが連想するキーワードとして、「葉の富山」があると思います。私のように、富山県内の大学で創薬研究に従事する者としては、この富山の地から世界に通用するようなオリジナルの医薬品を発信していくことが、重要課題であると考えています。今回の受賞を励みとしまして、今後更に富山県の発展に貢献できるよう、志新たに研究努力を続けていきたいと考えております。

学術研究（整形外科学）

私は、富山で生まれ、小学校、中学校、



富山大学附属病院
講師
川口 善治 氏

高校、大学、大学院と富山の学校へ通い、文字通り富山で育ちました。まさにこの恵まれた環境でこつこつと地道にやってきた仕事ですが、本日このような形で評価を受けましたことは、私にとって望外の喜びでございます。

私の仕事は、腰椎椎間板ヘルニアの発症に関連する遺伝子を見つける一端を担ったこととあります。富山大学の関庄二医師、木村友厚教授をはじめ、東京の理化学研究所や慶応大学、京都府立大学の研究者との共同研究によって、関節軟骨の中間層に存在する蛋白の遺伝子 Cartilage Intermediate Layer Protein (CILP) にその鍵があり、ある遺伝子の型（例えば血液型で言うA型とかB型とかという）、ある遺伝子のタイプが椎間板ヘルニア患者様に多いことを見つけてました。そしてその遺伝子がどのようにして椎間板ヘルニアを発症させるのか、というメカニズムの一端も明らかにしました。このように言うことは簡単なのですが、そこには約十年にわたる地道な結果の積み重ねがございます。我々の教室では、約十年前より椎間板ヘルニア患者様の家系調査から、どうも椎間板ヘルニアは家族内に多く発症していることを見つけていました。そこで私は多分椎間板ヘルニアを起すしやすい体質を決定する遺伝子があるのではないかと予想しました。一九九九年のことでございます。その後椎間板ヘルニアの患者様に十分な説明を行った上で、血液を採取させていただき、

その中からお一人ずつ患者様のDNAを抽出していった訳でございます。その集めたDNAの解析もたいへん時間のかかる作業でした。夜な夜な多くの機械を使って分析しデータを集め、これを結果としてまとめるのに九三年を費やしました。その過程で多くの方々のご協力により本当に幸運なことに、その手がかりを見つけることができました。

私は、この一連の研究を通じ、発想の大切さ、これまでの研究を勉強することの大切さ、地道な努力の大切さとその後には是非この知見を多くの悩める患者様の診断や治療に生かして参りたいと考えております。また今後のとやまを担う多くの後輩に、研究の目的とその意義、素晴らしいさを伝えて参りたいと思っております。

コンピュータが普及し、どこにいても必要な情報は得られますし、こちらから発信することも可能な時代です。今の時代これまでであった富山地方という地域的なハンディは全くないといっても過言ではないでしょう。むしろ地に足を下ろして行う研究には、このような恵まれた富山という環境が適しているのかもしれない。是非多くの新しい知見がこの富山から発信できるように今後とも努力して参りたいと思っております。

学術研究（物性物理学）

富山を出てからすでに二十五年になりますが、振り返って富山での生活を考えると、豊かな自然に囲まれた環境で、じっくりと自分のやりたいことを見つけることができた時期だった気がします。

今回の受賞の対象となりました研究は、液体やガラスの中の原子の並び方が数万気圧という圧力によってどう変わるかを

の受賞者

は、記憶に新しいところ

今年度

調べる基礎研究です。私の前の上可だった先生が二十年前ほど前に研究を始めたときは、同じ研究をしている人は世界的にもほとんどなく、反響は乏しいものでした。しかし

ながら、私たちはこの研究の重要性、将来性を信じ、実験法の開発を行い、様々な物質で測定を続けました。その中から、圧力によって液体の構造が急激に変わるという、これまでの常識を覆すような現象をリンという物質で見出すことができました。このように一つのことじじくり取り組む姿勢は富山に育ったことと関係あるかもしれません。



日本原子力研究開発機構
主任研究員
片山 芳則 氏

私は今、西播磨にある大型放射光施設SPring-8で研究しています。これは加速した電子から出る強力なX線を利用して物質の構造や性質を調べる施設で、物理や化学だけでなく、生物や地球科学、工学などの多くの研究者が使っています。このような最先端の施設が日本にいくつも作られていますので、これらを使いこなして一流の成果を出す人が今後ますます必要です。若い方々にはぜひこのような研究にも目を向けてもらいたいと思います。

ます。この成果は私ひとりのものではもちろんありません。ご指導いただいた諸先生方、多くの同僚の方、そして家族に感謝したいと思います。今回の受賞を励みにしてこれからも一層研究を進めたいと思っています。

学術研究（アメリカ研究）



筑波大学大学院人文社会科学部研究科
助教授
竹谷 悦子 氏

今回で二十三回を迎える「とやま賞」ですが、過去の受賞者一覧を見ると、富山県出身、在住の研究者の層の厚さを改めて印象づけられると同時に、ある一つの興味深い事実を目の当たりにします。それは学術研究部門の受賞者の大部分が理工系及び生物系の研究者であり、人文社会系の受賞が極めて少ないという、あまりにも歴然とした不均衡です。

このことは日本の理工系及び生物系の研究者の学術研究レベルの高さを物語ると同時に、その一方で、人文社会系において、国際的存在感をもつ研究者を育てる土壌がいかに用意されていないかを如実に示していると言えます。

昨年度、私は第一回日本学術振興会賞を受賞させていただく光栄に恵まれましたが、その時に審査委員長の江崎玲於奈氏が次のように述べられました。「興味ある事実は、(第一回)日本学術振興会賞受賞者(二十五人中五人が外国の大学での博士号取得者であるが、そのうちの四人までが人文社会系である)。これが何を

意味するかは興味を引くところである(『学術月報』二〇〇五年五月号)。私自身アメリカの大学院で博士号を取得し、今回受賞対象となった研究もまたアメリカの大学出版局から出版されたものです。人文社会系の研究を(理工系及び生物系と同様に)国際レベルにまで高め推進していくための、国内の研究環境が整備される必要を強く感じています。

現在私は、真珠湾攻撃までの約十年間に、アフリカ系アメリカ人作家たちが思い描いたアジアとの超国家的連帯を探るという研究を行っています。この研究は「西欧を(中心)とし、アジア・太平洋を(周縁)とみなす世界観に依存したまま展開されてきたこれまでの黒人文学研究の方向性を批判的に見直し、さらに今日まで日本史研究・アメリカ史研究の双方から看過されてきた日米の接点を掘り起こし、それを通じて環太平洋文化交流を論じることを目的としています。

今回の受賞を契機として、世界をリードする研究を発信していくという、社会の期待に応えられるよう今後も研究に邁進するとともに、大学の教員として、教育者として、学生及び後進の研究者、とりわけ国際レベルで活躍できる女性研究者を育てていくという社会的任務を全うしていきたいと思っています。

スポーツ（スピードスケート）



ダイチ株式会社
田畑 真紀 氏

私は、二〇〇六年二月、イタリア、ト

リノで行われた冬季オリンピックに五種目、ハレーズに出場することができ、自分の限界に挑戦しレースをすることができました。ここまで頑張ってきたのも、富山県を始め、ダイチ株式会社、監督と素晴らしいチームメイト、そしてなによりも、応援して下さい下さった方がいたおかげだと心から感謝いたしております。オリンピックでは、満足する成績を残せませんでした。そこに至るまでにとっても素晴らしい経験ができました。

私がスケートを始めたのは全校生徒三十五人の小学校の一年の時でした。毎晩父母等がグラウンドに水を撒いて作ってくれた小さなリンクでした。児童全員が冬はスケートをやっていたので私も自然と始めることができました。小さい時は何事においても自信が持てなかった私でしたが大会で良い成績がでると、もっと速くなりたい、もっと強くなりたいと思うようになり、寒い中での厳しいトレーニングにも頑張れ、自分に自信が持てるようにもなり、今では沢山の友人を始め、人と知り合うことができたことは私の最高の財産です。二〇一〇年に開催されるカナダ、バンクーバー冬季オリンピックに向けて新たな目標を掲げ、今回の「とやま賞」を励みに精進し頑張ります。





小林先生に国立成育医療センターと東大病院を紹介していただきました



加藤先生「まず子どもに『医者はおこわくない』とわかってもらうこと」



五十嵐先生「大切なのはadvocacy」

「子どもたちの心の傷も癒せる小児科医になりたい」

竹内 岬子さん（富山大学人間発達科学部附属中学校 1年）

【入門内容】

8月8日（火）～10日（木）

小林登先生（東京大学名誉教授・国立小児病院名誉院長）のご紹介で、国立成育医療センターと東京大学医学部附属病院に入門。成育医療センターの加藤病院長や東京大学の五十嵐教授をはじめ、たくさんの方の医療スタッフの方にお会いし、「子どもと接するとき大切なことは？」などの質問に答えていただきました。

成育医療センターでは、こころの診療部の笠原先生にお話を伺ったほか、小児病棟、思春期病棟、母性病棟、放射線診療部などを見学。子どものためにいろいろな配慮がなされている施設・設備に驚きました。

東京大学医学部附属病院では、NICU（新生児集中治療室）、小児病棟、産科病棟を見学。NICUでは、保育器のしくみ等について詳しく説明していただきました。

《感想》

私は医師という職業を甘く見すぎていたなと感じました。でもそれと同時にもっと医師という職業が好きになりました。今から出来ることを少しずつ努力して、一歩ずつ夢に近づいていけたらなと思います。

「耳の不自由な方の力になれる手話通訳士になりたい」

沢井 風香さん（富山市立光陽小学校 5年）

「ボランティア活動の中心となる手話通訳士になりたい」

前川 恵弓さん（南砺市立井波中学校 1年）

【入門内容】

8月21日（月）～23日（水）

全館に聴覚障害バリアフリー設備を備えた研修・宿泊施設である、全国手話研修センターに入門。職員の小藤さん、白井さんから手話の講習を受け、簡単な自己紹介をしたり、いろいろな質問に答えてもらったりする中で、手話を身につけていきました。

2日目には京都市聴覚言語障害センター内の障害者授産施設「青空工房」を訪問。ろう者の方々と一緒に作業をしながら、手話で交流しました。



手話であいさつの練習



青空工房のみなさんに手話で自己紹介

《感想》

（沢井）短期入門でのいろいろな活動が、将来に活用できるかもしれないので、とても良かったなと思いました。

（前川）手話は難しかったけど、これからも頑張りたいと思います。そして手話通訳士になれるように努力したいと思います。



コーヒー、紅茶、お茶の手話の違いは？

育成事業

※事業名は、ノーベル物理学賞受賞者、小柴昌俊さんの「子どもたちには、『夢の卵』をもち続けて欲しい」というメッセージを込めて、こちらで名づけたものです。



前川 恵弓さん（財団副理事長）がくれました。



花や果物の色素抽出実験中



色素についての疑問に答えてもらう



朝サントリー製品の前に記念撮影

「いろいろな植物の 新しい品種を作る研究をしたい」

井上穂乃芳さん（高岡市立木津小学校6年）

【入門内容】

8月28日（月）～29日（火）

遺伝子組み替えにより「青いバラ」を咲かせることに成功した、サントリー先進コア技術研究所に入門。田中シニアスペシャリストや水谷主任研究員の指導で、植物や果物の皮を使い、色素を抽出し分析する実験や植物のDNAを抽出する実験をさせていただきました。実験操作は難しく時間もかかりましたが、精一杯取り組みました。また、植物の組織培養作業の見学・体験をさせてもらったり、「青いバラ」を温室の外から見せてもらったりして、研究所の皆さんから本当にたくさんのお話をいただきました。

3日目は、京都府立植物園の広い園内をゆっくりと散策し、多種多様な植物に触れました。

《感想》

不可能を可能にする研究所の人たちが輝いて見えました。また一つの新しいものができるまでには多くの時間と知識が必要だということがわかりました。知ることは楽しいです。この3日間の研修は、とても有意義なものでした。



無人探査機「ハイバードルフィン」



間近で、ディーブアクアリウムを見学



加圧実験で水深1,000mへ

「富山湾に群生する オオグチボヤの研究をしたい」

山田 育弘さん（富山市立光陽小学校5年）

【入門内容】

8月23日（水）～25日（金）

オオグチボヤの研究をしている、海洋研究開発機構に入門。深海生物研究グループリーダー三輪さんと海洋地球情報部広報課監視役の山田さんから、深海生物や海洋調査船「なつしま」、無人探査機「ハイバードルフィン」、保温保圧型深海生物捕獲飼育システム「ディーブアクアリウム」等について説明していただきました。また、ボールや菓子袋等に水深1kmの水圧がかかるとどうなるかを調べる加圧実験をさせてもらったことで、深い海の中の様子を想像することができました。

3日目は、新江ノ島水族館で、広報チームリーダー高井さん、展示・飼育グループの三宅さんから、深海生物の調査やオオグチボヤについて教えていただいた後、館内の生物を熱心に観察しました。

《感想》

映像でオオグチボヤが口をあけるとところを見ただけで、やっぱり本物が見たいです。加圧実験で、深い海の中の様子を想像することができました。生きたまま採取して持ち帰るのは大変だと思いました。海のことについてたくさん知ることができました。

「この事業は、子どもたちに『つくつもの』『夢の卵』をもってもらおう」「『夢の卵』を温めてもらおう」と、そして『夢の卵』を孵すこと」を支援し、自分の将来を考えてもらうきっかけづくりをねらいとして、平成十六年度から実施しています。

四月下旬から六月上旬にかけて、県内の小学校五、六年生と中学

一、一二年生を対象に、「将来の夢（『夢の卵』）」を書いた作文を募集し、その中から国内の各分野の第一人者に二泊三日の短期入門をする五名の児童・生徒を選びました。

| | | | |
|-------|----|-----|---------|
| 小学生の部 | 二名 | 応募数 | 四百二十一作品 |
| 中学生の部 | 三名 | 応募数 | 八十九作品 |



7月28日富山県発表式では、八木君から賞状とトロフィー

きらめき 未来塾

ディベート道場

議論を通して、多面的なものの見方や考え方、表現力を育てる。

講師：永田 円了氏（元富山国際大学教授）
湯口千鶴子氏（富山中部高等学校教諭）
山田 智子氏（富山大学人間発達科学部附属中学校教諭）

練習試合を重ねる中で、資料の活用のしかた、「反駁」や「反対尋問」のポイントを学びました。ディベート大会では、「富山県の小・中学校の夏休みをもっと長くすべきである。是か非か」の論題で白熱した議論が展開されました。



お笑い道場

古典落語を学び、ユーモアセンス・表現力を育てる。

講師：三遊亭圓窓氏（社団法人落語協会理事）

まず大きな声を出すこと、それから小道具の使い方やしぐさ等について学びました。お笑い大会では、「ことば」に焦点をあてたクイズを、会場に見に来てくれた家族らと一緒に楽しんだり、全員が一人ずつ高座に上がって小咄を披露したりしました。



子どもたちに豊かな発想力や創造力、自己表現力などを育ててもらおうと、今年も夏休みに4つの道場を開催しました。開講式で八木塾長（財団副理事長）は、「夏休みという機会を活用し、日ごろの学校生活では味わえない体験をしてください」と励ました。

右脳活用道場

直感的なイメージを詩にし、創造力・洞察力を育てる。
講師：ねじめ正一氏（詩人・直木賞作家）

言葉の想像力を豊かにし、頭で思い描いたイメージを自分の言葉で詩に表現できるよう、五十音図を使っての言葉遊びや「ねこふんじゃた」の歌詞の一部を子どもたちが創作するなど、遊びを通して詩づくりを学びました。



思考道場

自分で考える力を磨き、思考力・発想力を育てる。

講師：秋山 仁氏（東海大学教授）
岡本 薫氏（黒部市立若栗小学校教諭）
竹内 一氏（富山市立鶴坂小学校教諭）
土肥 和美氏（上市町立南加積小学校教諭）
串田 尚子氏（高岡市立野村小学校教諭）
鈴木 和代氏（砺波市立砺波北部小学校教諭）

「すごろくドボンゲーム」や「デシリットルマスの謎」、「三面コースター」、「桂馬（ナイト）ゲーム!」、「閉じ込めちゃうぞ!」など、秋山仁先生開発の教材や身の回りにある素材を使いながら算数の楽しさにふれました。



仕事場拜見事業

8月22日(火)~23日(水)

最先端の科学技術を「見る!」・「聞く!」・「体験する!」

スーパーカミオカンデ、カムランド (飛騨市)

スーパーカミオカンデでは、5万tの超純水をたたえたタンク内で、ニュートリノのかすかな光を捉える11,200本の光電子増倍管が、一つひとつ職人の手作業によって作られることに驚き、カムランドでは、44本のロープで繋がれた巨大なバルーン



光電子増倍管ってこんなに大きいんだ!



油をきれいにする純化装置を見学

の中に入っている油(液体シンチレーター)と1,879本の光電子増倍管でニュートリノを観測していることを学びました。子どもたちは「いろんな問題が起きるけど、みんなで協力してすぐ解決するんだ」という研究者の言葉に頷いていました。

飛騨天文台 (高山市)

天文台にある世界第一級の性能を持つ5つの望遠鏡すべてを見学しました。この日は曇っていてドームレス太陽望遠鏡で「今」の太陽を見ることができず残念でしたが、子どもたちは、画像で見る太陽の表面活動(プロミネンスやフレアなど)の様子に興味深そうに見つめ、研究者の説明に耳を傾けていました。



スマート望遠鏡の説明を聞いています

セト電子工業(株) (射水市)

本社で、製品(各種表示器)設計部門、検査部門を見学した後、中老田工場に移動し、寿命が長く消費電力が小さい等の特徴を持つLED(発光ダイオード)について説明を受けました。また、職員の方手作りの回路で、実際にLEDを点灯させたり点滅させたりする実験をしました。さらに色の三原色「赤」「緑」「青」の数値(0~256)を変化させることによって、LEDの色がどのように変化するかを体験しました。



LEDを点灯させる回路を作成中

「うわっ、すごい」と驚きの声を上げていました。最後に、「自分で確かめたことは忘れない。公式だけ暗記するのではなく、どうやって導いたかがポイントだよ。」と子どもたちに語りかけられました。



財団では、七月二十四日(月)テレビでもおなじみの、数学者の秋山仁先生(東海大学教授・教育開発研究所次長)を講師に「算数なるほど納得!ゼミナール」を開催しました。先生は、「サッカーゴールのネットの目がなぜ正六角形になったのか?マンホールの蓋はなぜ落ちないのか?等の疑問を解説し、普段の生活の中にも数学が溢れていることを分かり易く説明してくださいました。また、先生は自作のいろんな教具を用いて、発想を少し変えることで、難問があつという間に解けてしまう例を次々と紹介。目の前で繰り広げられる算数の不思議に、参加した五十名の子もたちは、「えーっ」「うわっ、すごい」と驚きの声を上げていました。最後に、「自分で確かめたことは忘れない。公式だけ暗記するのではなく、どうやって導いたかがポイントだよ。」と子どもたちに語りかけられました。



秋山仁先生の
「算数なるほど納得!」
ゼミナール開催

平成19年度

「とやま賞」募集

1. 候補者の条件

- (1) 富山県出身又は富山県在住の方
- (2) 学術研究、発明発見（技術開発・応用を含む）、芸術文化、スポーツ等の分野において、すぐれた業績を挙げ、かつ、将来の活躍が期待される個人又は団体

※なお、年齢は原則として45歳までとするが、人文・社会科学系についてはこの限りではない。また、大学・研究機関等にあつては助教授クラスまでとし、教授は含まない。

2. 提出書類等

- (1) 平成19年度「とやま賞」候補者推薦書（財団ホームページからダウンロード可能）
- (2) 財団が特に指定する提出資料
但し、e-mailでの提出は受け付けない。

3. 推薦締切

平成18年12月8日（金）必着

4. 送付先

〒930-0018
富山県富山市千歳町1-5-1
富山県教育記念館2F
（財）富山県ひとづくり財団 事務局あて

5. 選考、発表

- (1) 本財団で候補者の将来性、独自性、国際性などの観点から慎重に審議して、受賞者を決定する。
- (2) 受賞者の発表は平成19年4月の予定

6. 表彰

- (1) 受賞者には奨励金として100万円を贈呈する。
- (2) 贈呈式は平成19年5月の予定

●お問い合わせ先

電話：076-444-2000 F A X：076-444-2001
e-mail:masuoka@t-hito.or.jp ホームページ：<http://www.t-hito.or.jp>
詳しくは、財団事務局までお問い合わせください。

“アイディア ロボット フェスタ” 開催

昨年度は、富山県内の学校で行われているロボット研究の現状を紹介する「中学生、高校生、高専生によるロボット展」を開催しました。全国でも高い水準にある富山県内のロボット研究は学校においても例外ではなく、創意に満ちた設計、力学を十分考慮した構造など素晴らしいロボットの展示され、多くの来場者の称賛を受けることが出来ました。

今年度は、昨年度同様のロボット展に加えて、ロボットづくりに関する講話や実技講習を行うとともに、ロボットに直接触れたり、自らも製作したりする機会を設け、県内ロボットづくりの水準の向上を図り、ものづくりのおもしろさや楽しさを体験できるように企画しました。

[中学生、高校生、高専生によるロボット展]

- ◆期間 平成18年12月16日(土)～平成19年1月28日(日)
- ◆会場 富山県教育記念館 1階多目的ギャラリー

県内の中学校、高等学校、高等専門学校の皆さんが製作したアイディア溢れるロボットを展示します。



多くの来場者で賑わった昨年のロボット展

[チャレンジデー]

- ◆期間 平成19年1月13日(土)～1月14日(日)
- ◆会場 富山県教育記念館 5階
大会議室、小会議室
高志会館 2階 カルチャーホール

世界一の癒しロボット「パロ」開発者の柴田崇徳氏による講演、富山商船高等専門学校 浦風 助教授及び富山県立大学 神谷 講師による実技講習をはじめ、半日・1日コースのロボットづくりなど、ものづくりへの創造性や思考の仕方、具体的な形への工夫などをロボットづくりに携わっている方から直接学びます。

我が社の人づくり

第3回

～このコーナーでは、毎回、当財団の法人賛助会員の経営者の皆さんに、企業の人づくりについて語っていただいております～



トナミ運輸株式会社
代表取締役社長 綿貫 勝介 氏

当社は、「輸送を通じ社会に寄与し、事業の発展をはかる」ことを基本方針として経営に取り組んでおります。

企業経営の基本は、大きく分けて「人・物・金」と考えますが、その中でも「人」はその価値を金額で推し量ることができない貴重な財産であり、殊に最近の事業環境から見ても「世の中の変化に対応出来る柔軟な人材」が求められるのではないかと思います。

「求められる人材・活躍する人材」という言葉をよく耳にしますが、「企業で育つ人材とは、経営に携わる人達を映し出す鏡」ではないかと思います。

つまり、常日頃から、安心して仕事を任せられる人材を育成することが重要であるとの道理に尽きますが、「やって見せ、言って聞かせ、やらせて見て…」の先達の言葉があるように、様々な成長の可能性をもった若手人材を「成長への意欲を持てる様にする」ことが肝要と思います。単に、社員にどのような指導をしているからではなく、人を教え育てるという発想から「人の成長を支援する」とい

う発想の転換をはかり、社員にどのような後ろ姿を見せているかではないかと考えます。

当社は職種の大半をドライバーで占めており、「安全はすべてに優先する」ことは言うまでもないことかもしれませんが、安全を確保するための「智慧を駆使する」ことが要であると思います。この智慧は、相手の願い・要望・気持ちを思いやり、新しいものを創造する、当社の経営理念である「和の経営」に通じるもので、体験や人間との触れ合いからしか学べないもので、教育では会得することが出来ない貴重なものであると思います。

この様に、人材教育から成長支援という発想に立ち、経営に携わる者が経営のプロとして、人材成長への意欲をもって臨むことが大切であり、その結果、社員は自ずと成長への意欲を示してくれるようになると期待しております。

「働き甲斐ある仕事」「職業人としての能力の向上」「人間としての成長」この3つを支援していくことが、人づくりに不可欠であると考えています。

社 名:トナミ運輸株式会社

住 所:〒933-8566 富山県高岡市昭和町3丁目2番12号

T E L : 0766-21-1073

U R L : <http://www.tonami.co.jp/>

事業概要:貨物自動車運送事業、貨物利用運送事業、倉庫業、
自動車修理業、損害保険代理業、物品販売業、
インターネットプロバイダー事業 他

賛助会員の募集!

富山県ひとづくり財団では、広く財団の活動に賛同される個人、法人の方々に賛助会員としてご協力をいただきたいと考えております。多くの皆様のご賛同をお願いいたします。

◆年会費

法人会員 年一口 30,000円

個人会員 年一口 3,000円

◆特典

機関誌の定期配布 (年2回)

セミナー、イベント等の開催案内

各種報告書等の配布

県の情報誌、冊子等の配布

◆申込方法

賛助会員入会ご希望の方は財団へ連絡をお願いします。所定の用紙をお送りいたします。

「高校生とことん科学セミナー」 12月に開催

高校生の皆さんが科学への関心を深め、将来の進路や人生について考えるきっかけにと、各分野の第一線で活躍されている科学者を招き、最先端の研究に関する講義と、時間を気にせず膝を交えた交流をとことん行うものです。



昨年参加した高校生からは、「科学の面白さや可能性を実感した」「大学や大学院での研究に触れ、進学の気持ちが一層強くなった」といった感想が寄せられました。

今年度は、さらに高校生の皆さんの知的好奇心をくすぐるよう工夫して、12月に1泊2日の日程で輪インテック大山研修センターで開催します。





財団法人 富山県ひとづくり財団

〒930-0018 富山市千歳町1-5-1 富山県教育記念館2階
 TEL (076) 444-2000 FAX (076) 444-2001
 e-mail:toyama@t-hito.or.jp http://www.t-hito.or.jp

平成18年10月発行